

年十月に多年家塾開業し数多の子弟を引立て且つ教育がその宜しきを得た廉を以て金円若干の褒賞を賜わった。

桑原塾

牟礼村田屋の人桑原武正は元和四年（一六一八）に生れ、右田郷校時親蘭に学び郷里に帰って岸津に家塾を開いて子弟に教授した。

宝永四年正月八十九才で没したが、左記の如くその子孫七代相伝えて文武を以て門弟を教育した。

初代桑原源兵衛（武正）

寛水の頃から元禄年間まで六十餘年間家塾を開く

二代桑原五兵衛（武清）

宝永の頃から寛保年間、延享二年八十一才で没

三代桑原判右衛門（恒虎）

延享年間 宝暦九年七月没

四代桑原源右衛門（英虎）

明和の頃から享和年間に至るまで数百年の門弟を教授、藩軍学師範役に任ぜられ小形船を以て門弟を教授、文化六年没

五代桑原治郎衛門（朝昌）

安永の頃から文政年間まで数百年の門弟を教育し、武藝は楠木流を教授した。文政九年没。

六代桑原源左衛門（英昌）

文政の頃から天保年間教授、天保七年十二月没

七代桑原判三（英猷）

嘉永年間より生徒を教授し維新後咸和小学校教員

松村塾

天保年間（一八三〇—一八四三）に江泊の松村宗蔵は家塾を沖の原に開いて子弟に経書を授け、元治元年（一八六四）五十九才で没するまで続けた。

江沖塾

三田尻高洲の荒瀬桑陽は若くして京都の猪飼敬所の門に入り、学大いに進んで郷里に帰り耕耘のかたわら子弟を教導した。たまたま松村宗蔵が没し、師を失った門弟たちの切なる願いにより、宗蔵の遺跡において教授の任に当り、江沖塾と命名した。塾には右田・中の関・三田尻・江泊・沖の原・新田・富海・徳地等より来る者多く、経学・書道の講義を続けた。殊に水滸伝の講釈が得意で、常に師祖の恩・父母賦形の恩・更に天地至上の恩の三恩を諄々と説いた。桑陽は経学は素より兵学・天文・曆学等に精進し博学多芸の人であった。明治十七年十二月十六日、七十九才の長命で没したが、翌十八年門弟数名相謀り

頌徳碑を塾跡に近い国道に接した地

に建立した。また桑陽逝いて四十八

年後の昭和七年四月、三田尻高洲の

生誕地の一隅に遺弟御園生秀太郎等



三田尻高洲にある桑陽頌徳碑